

# 個人投資家向け会社説明会

～想いを、世界に GMOリサーチ～

**GMO** RESEARCH

STOCK CODE : 3695

代表取締役 細川 慎一

- ① 会社概要
- ② 事業概要
- ③ 2018年12月期 業績予想
- ④ 参考資料

1

# 会社概要

## 事業

インターネットリサーチ事業

## 会社名

GMOリサーチ株式会社

## 所在地

東京都渋谷区桜丘町26番1号 セルリアンタワー

## 設立

平成14年4月

## 証券コード

3695 (2014年10月マザーズ上場)

## 資本金

299百万円

## 連結子会社

GMO E-Lab Marketing Research (Shanghai) Co, Ltd. (中国)  
GMO Research Pte. Ltd. (シンガポール)  
GMO Research Pvt. Ltd. (インド)  
GMO Research Sdn. Bhd. (マレーシア)

## 連結従業員数

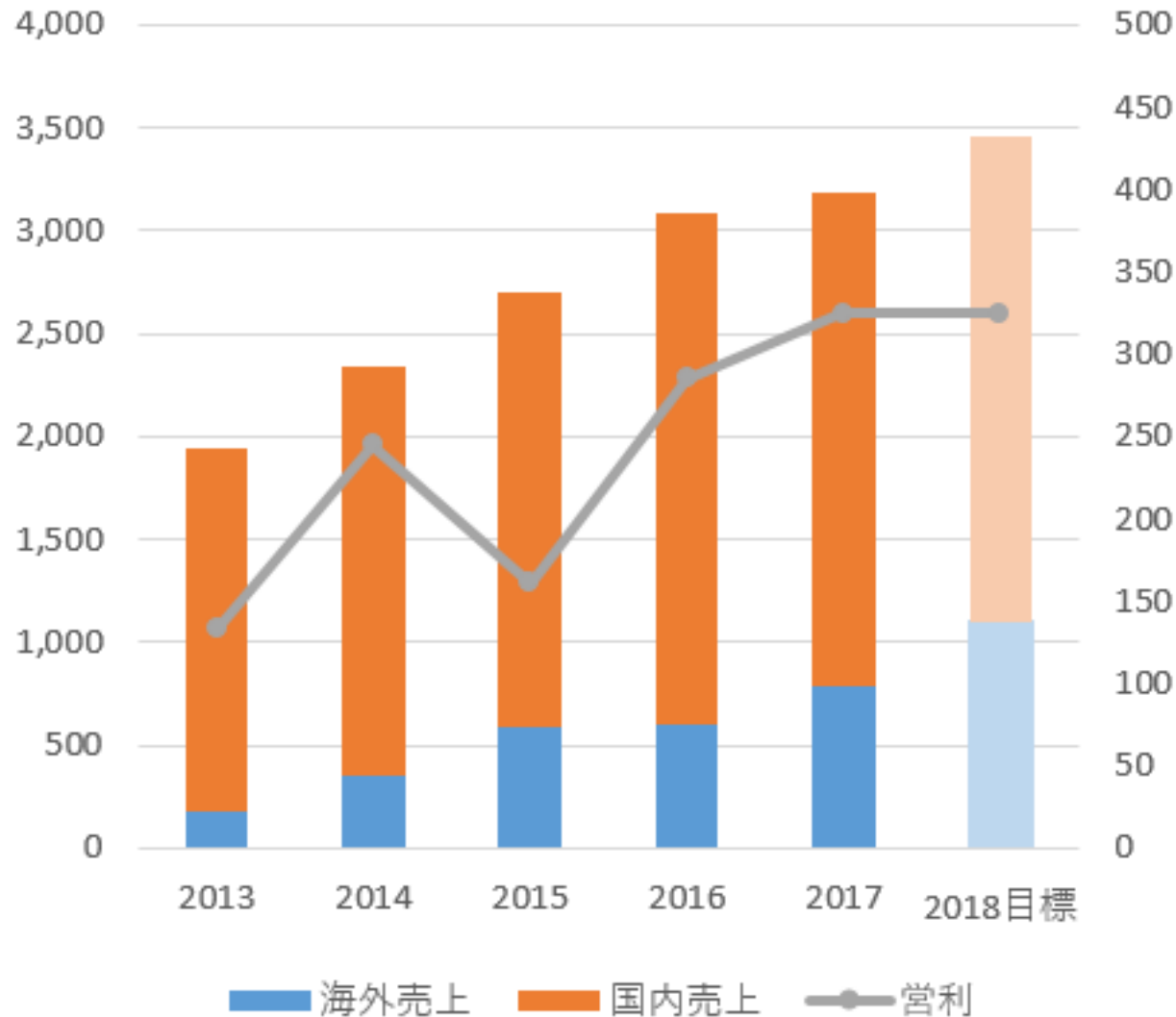
126名 (平成30年1月1日現在)

## 主要株主

GMOインターネット(株) (東証1部上場) 53.04%

・過去から順当に成長。2017年以降は、海外売上が成長を牽引

単位：百万円





細川 慎一  
(ほそかわ しんいち)

昭和48年

・香川県生まれ

平成8年

・大学卒業後、海外勤務に憧れ、  
在エチオピア日本国大使館で勤務

平成12年

・世界で通用する経営学習得の必要性を  
感じ、サンダーバード米国経営大学院  
MBA入学

平成13年

・MBA卒業後、学んだ経営学の方法論を  
実践するため、KPMGコンサルティング  
入社、CRM戦略チームに

平成17年

・KPMGでマーケティングの重要さに触れ、  
サンダーバードで学んだ経営を実業で  
やりたいとGMOメディアアンドソリュー  
ションズ社入社後、平成18年、  
GMOリサーチ(株)代表取締役就任

仲間の人数 126名 ※連結  
◎外国籍 40名 (31.7%)

下記の外、北米、欧州で営業活動を行っております。

China : 7名

India : 16名

Malaysia : 1名

Singapore : 4名

Tokyo & Shimonoseki, Japan  
GMOリサーチ株式会社 : 98名  
うち外国籍 : 15名 (15.0%)



想いを、世界に

Engaging people around the world

GMO RESEARCH

私たちは、生活者と企業の「想い」に向き合い、  
わくわくするアイデアやテクノロジーで「世界」につなぎ、  
笑顔・感動の創造に貢献する。

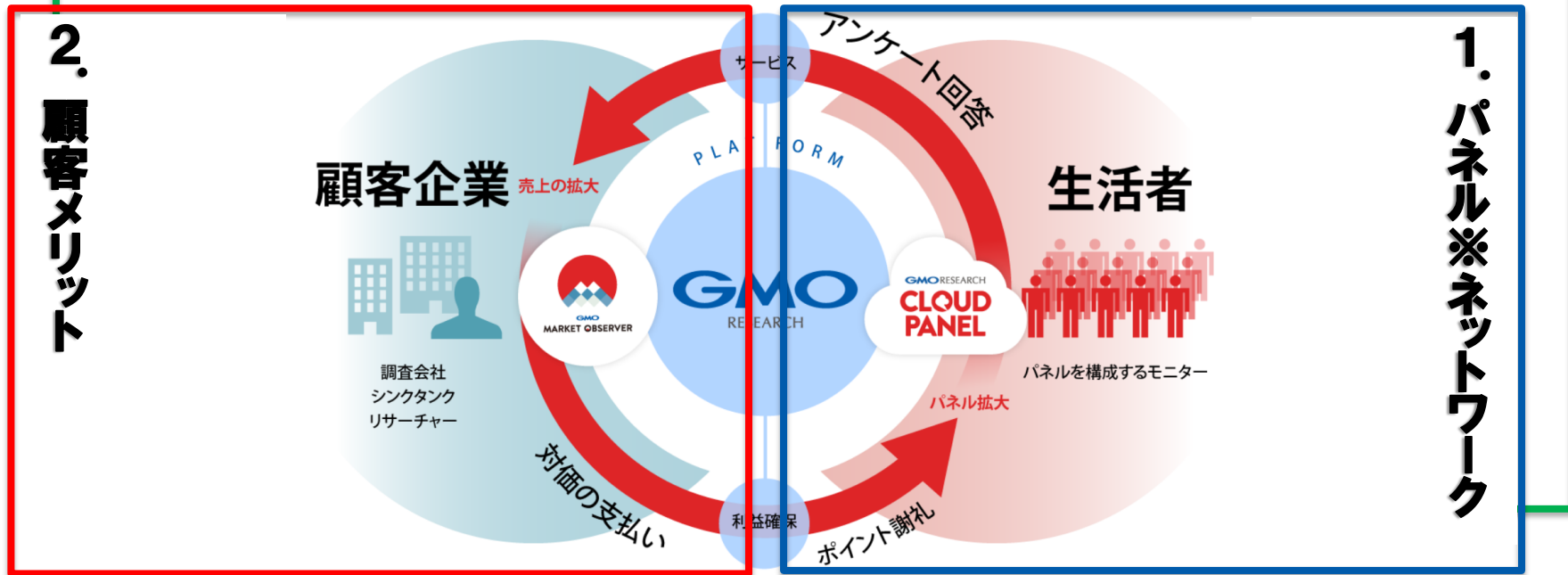


2

事業概要

- ・インターネット上で、アンケート調査を手軽に利用できるような仕組みを国内外の顧客企業に提供
- ・顧客企業（案件量）と生活者（パネル会員ネットワークの規模）を競合に先立って、両輪で拡大させることが重要

## 3. 海外展開



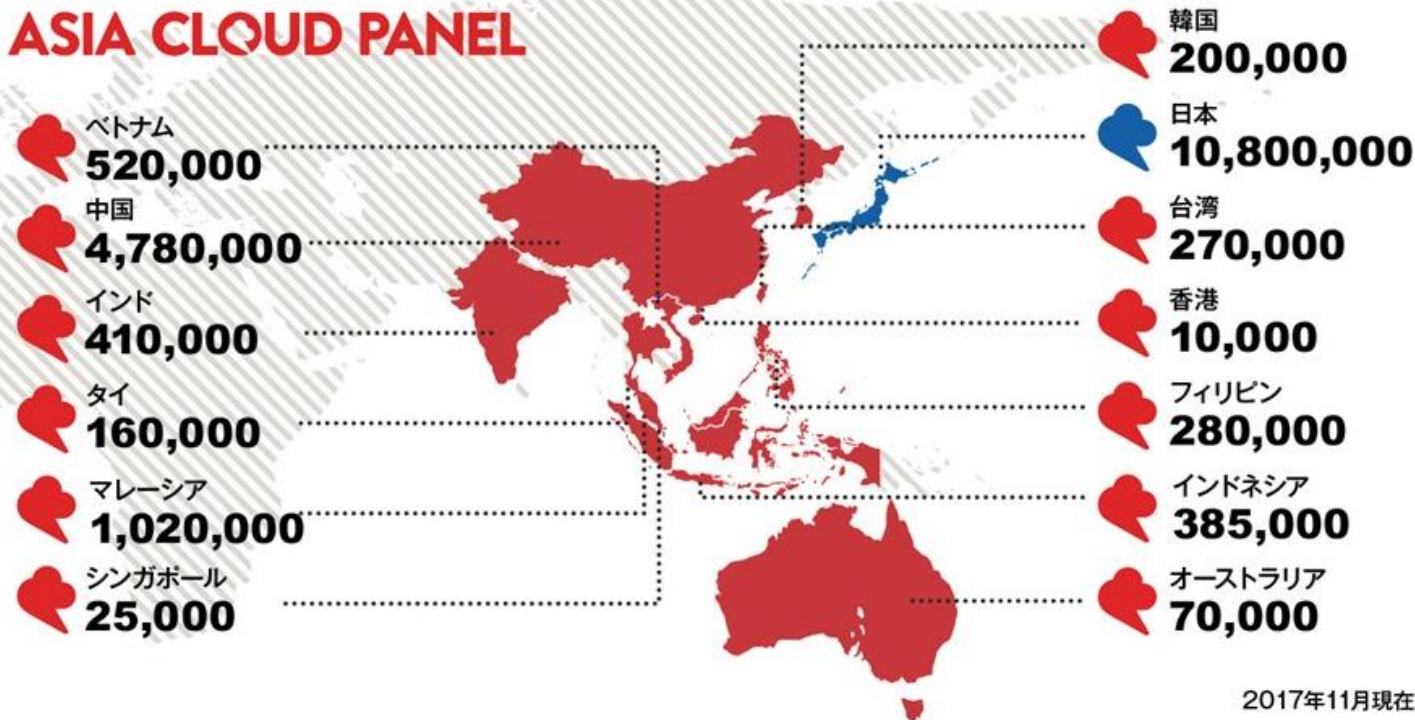
※パネルとは、調査に回答する一般消費者やビジネスパーソン

# 1. パネルネットワーク

- ・ 自社媒体を含む、業界最大規模のアジア<sup>o</sup> 初ネットワークを構築
  - ・ アジア13カ国 1,800万人超
- 大型、複数ヶ国にまたがる案件等に対応可能であり、競争力、提案力が高い

GMO RESEARCH

## ASIA CLOUD PANEL



2017年11月現在



・当社は自社<sup>パ</sup>ネル構築に加え、他社媒体のクラウド化（システム連携）により<sup>パ</sup>ネルネットワークを**拡大**し、**原価低減**及び構築**スピードUP**

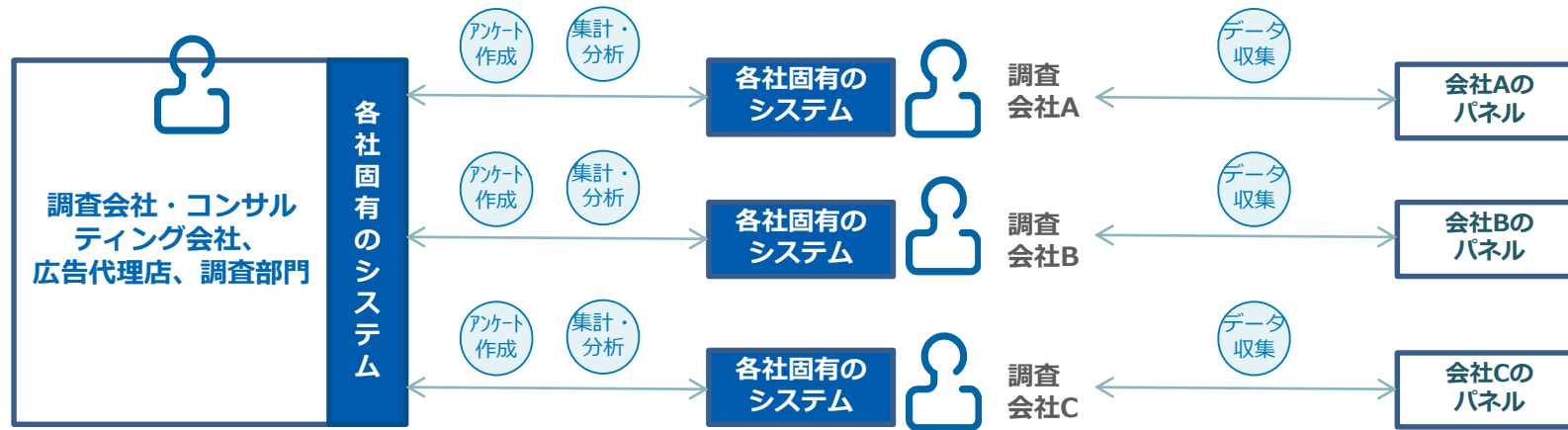


	ポイント	補足
メリット	①低コストでの <sup>パ</sup> ネル調達が可能	→クラウド化（システム連携）の場合、当社は新規会員獲得の広告費や媒体維持運用費がかからない →その分、提携した他社媒体には、マナー、コンテンツ提供、アンケート回答者へのポイントの当社負担などメリットを提供
	② <sup>パ</sup> ネル構築スピードが早い	→すでに会員ユーザーを持つ媒体とシステム連携するため、 <sup>パ</sup> ネル構築のスピードが早い →特に新たな国の海外 <sup>パ</sup> ネルの構築の際など、ゼロからの構築に比べスピードの差が大きい
デメリット	媒体ごとの特有の制約などがあり、対応コスト、運営ノウハウが必要	→当社内でシステム化を進め、上記に対して低コストで対応可能な体制を構築 →結果、当ノウハウにより、他社が簡単には真似できない仕組みを構築

## 2. 顧客メリット

- ・ アジア最大規模のパネリストネットワークを利用し、調査パネルを低コストで提供
- ・ 従来、各社バラバラに開発していた、インターネットリサーチツールを標準化し、低コストで提供

従来



業界の  
業務標準化

標準化

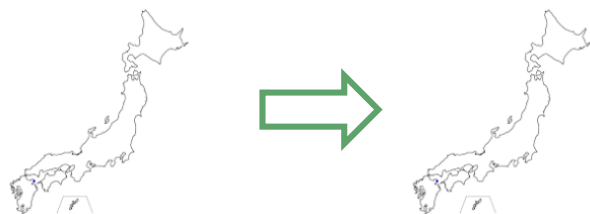


・ 事業開始当初から①→②→③④の順に事業を拡大中

## ① 成長ポテンシャル 小

日本パネル

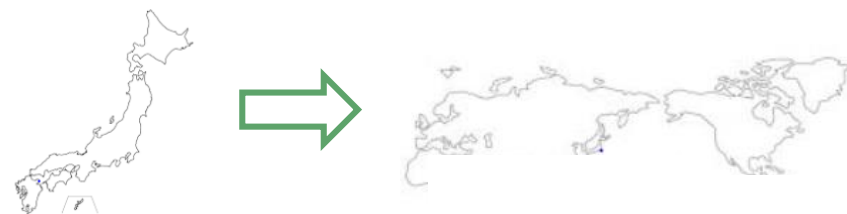
日本企業



## ② 成長ポテンシャル 中

日本パネル

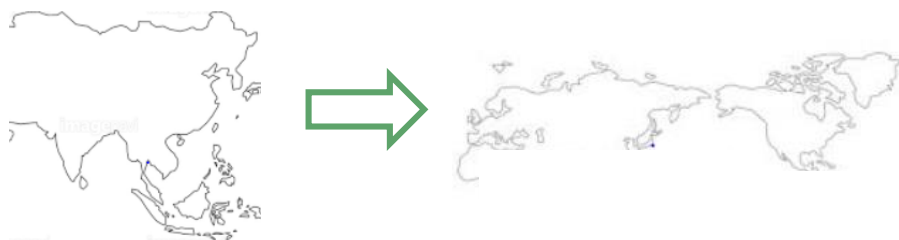
欧米企業



## ③ 成長ポテンシャル 大

アジアパネル

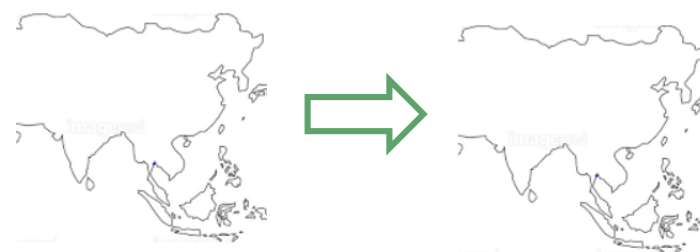
欧米企業



## ④ 成長ポテンシャル 大

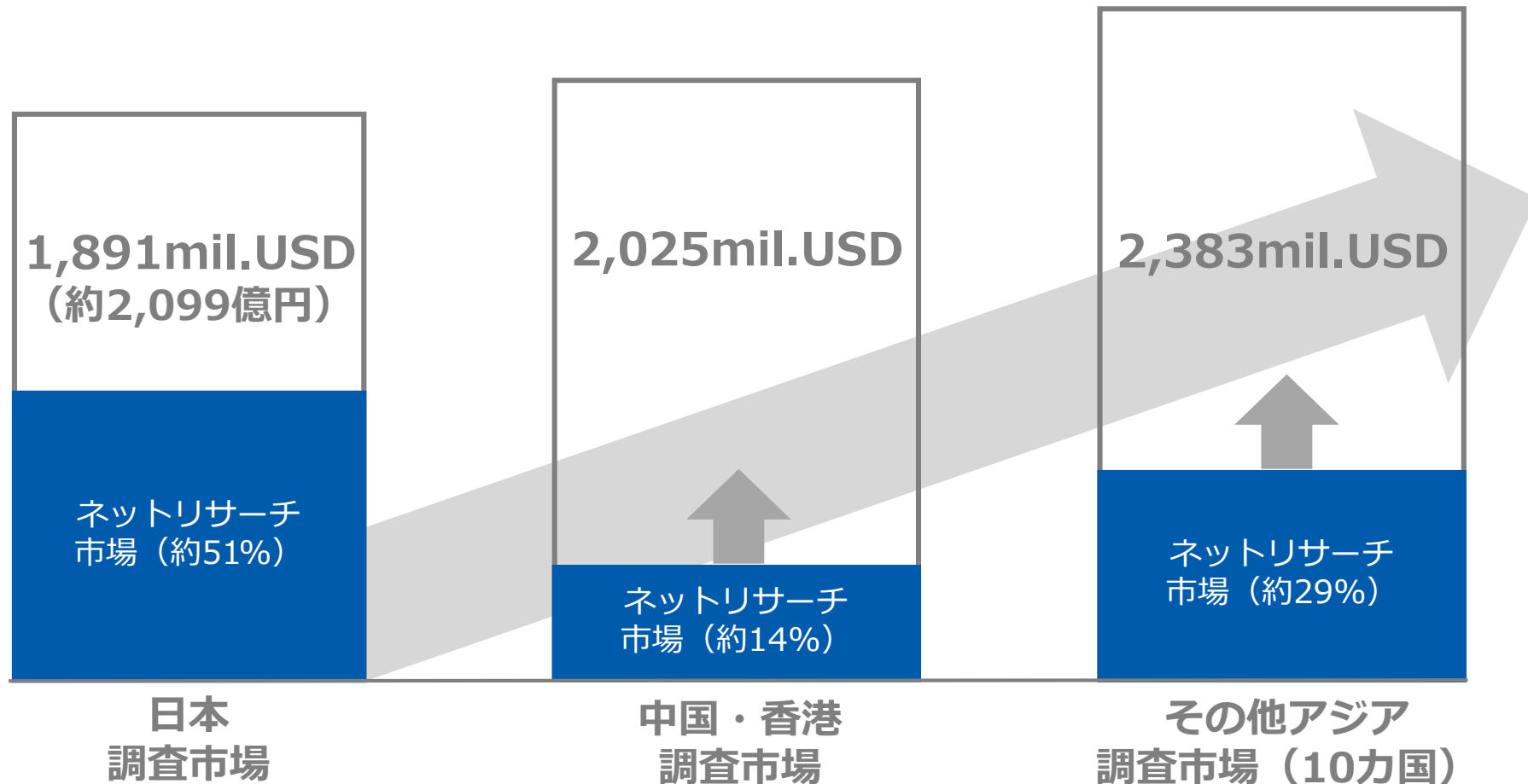
アジアパネル

アジア企業



### 3. 海外展開

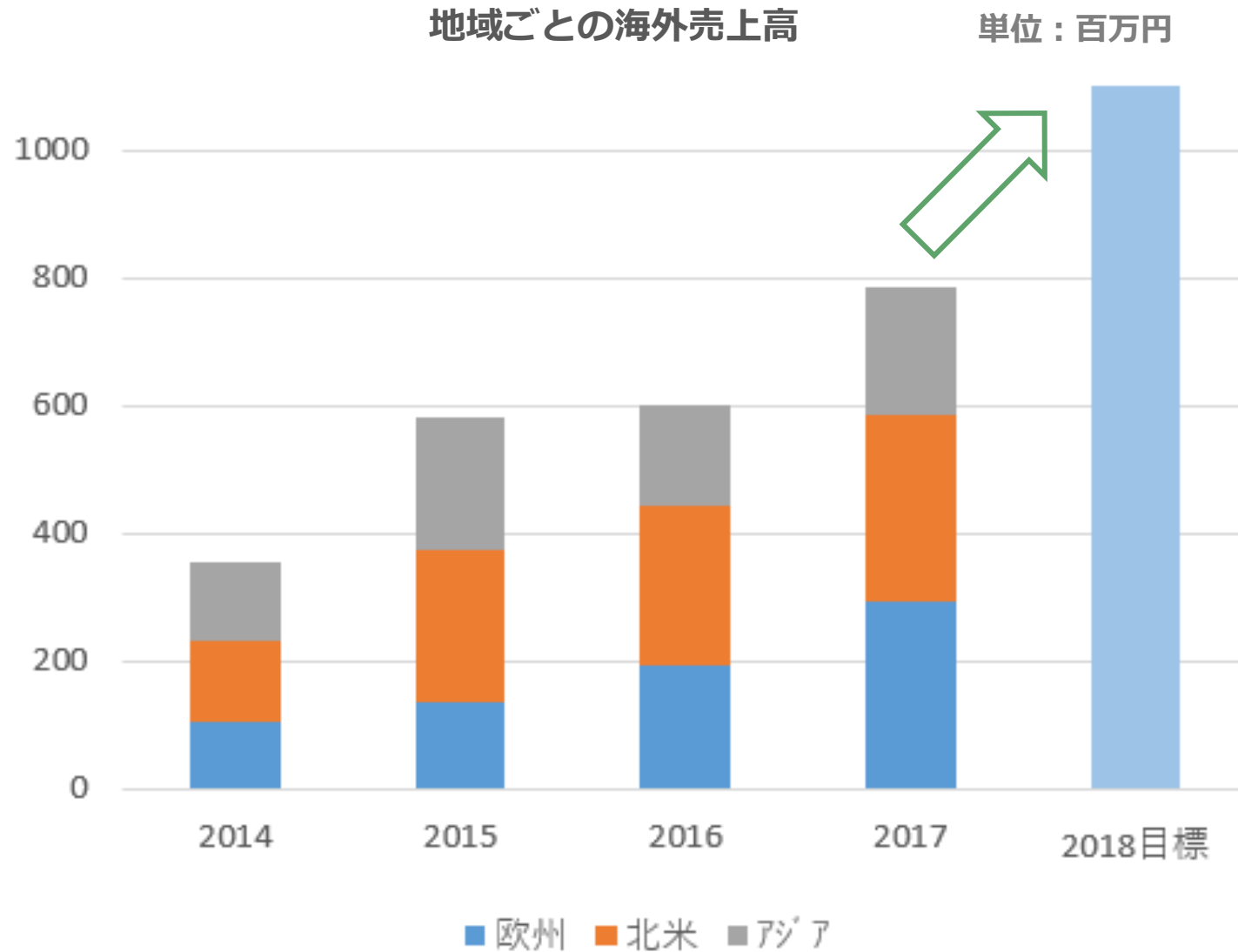
- ・アジア地域のインターネットリサーチ市場はオンライン化が進み、今後さらに拡大すると予想
- ・欧米企業と比較し、日本からのアジア展開は地理的、文化的優位性あり
- ・まだ**アジア調査**でのビッグプレイヤーは不在のため、**圧倒的No1**を目指す



2017年ESOMAR 調べ

### 3. 海外展開

- ・ 2017年より、成長が加速し、2018年以降も高成長を見込む





3

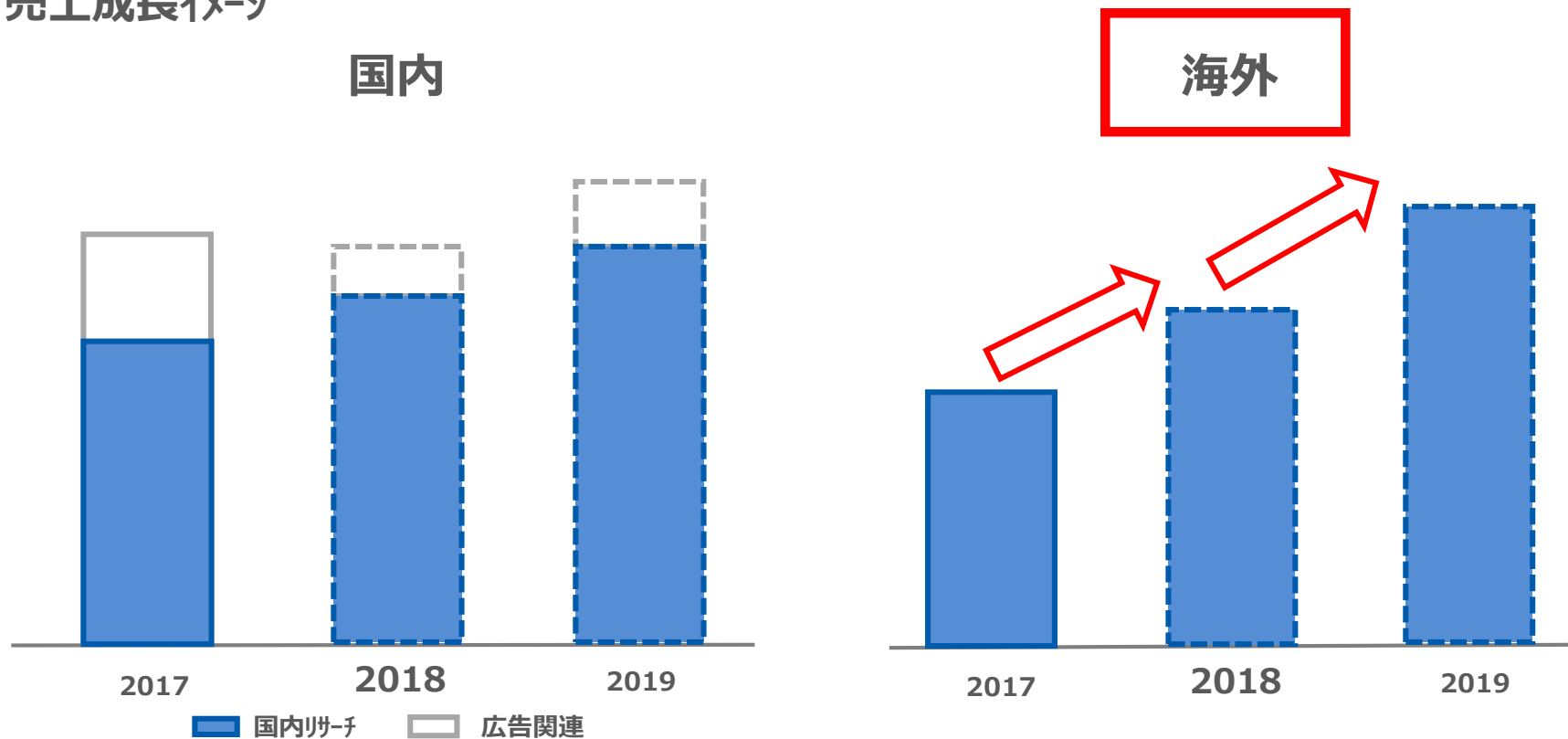
## 2018年12月期 業績予想

- 売上は国内広告関連の下ブレを、海外売上の高成長、国内リサーチ売上の堅調な成長により吸収し、9.7%成長を目標
- 営業利益は上記影響及び、前年利益水準を維持する範囲で、今後の成長領域の海外への投資を強化

(単位：百万円)	2017 実績	2018 見通し	前年比 成長率
売上高	3,185	3,497	+9.7%
営業利益	325	325	+0.0%
経常利益	321	305	▲5.1%
最終利益	207	207	+0.0%

- 2018年 売上成長イメージ
- 国内について、広告関連は上下ブレがあるものの、国内リサーチは堅調な成長を見込む
- 海外について、2017年好調を受け、2018年以降も高成長を期待

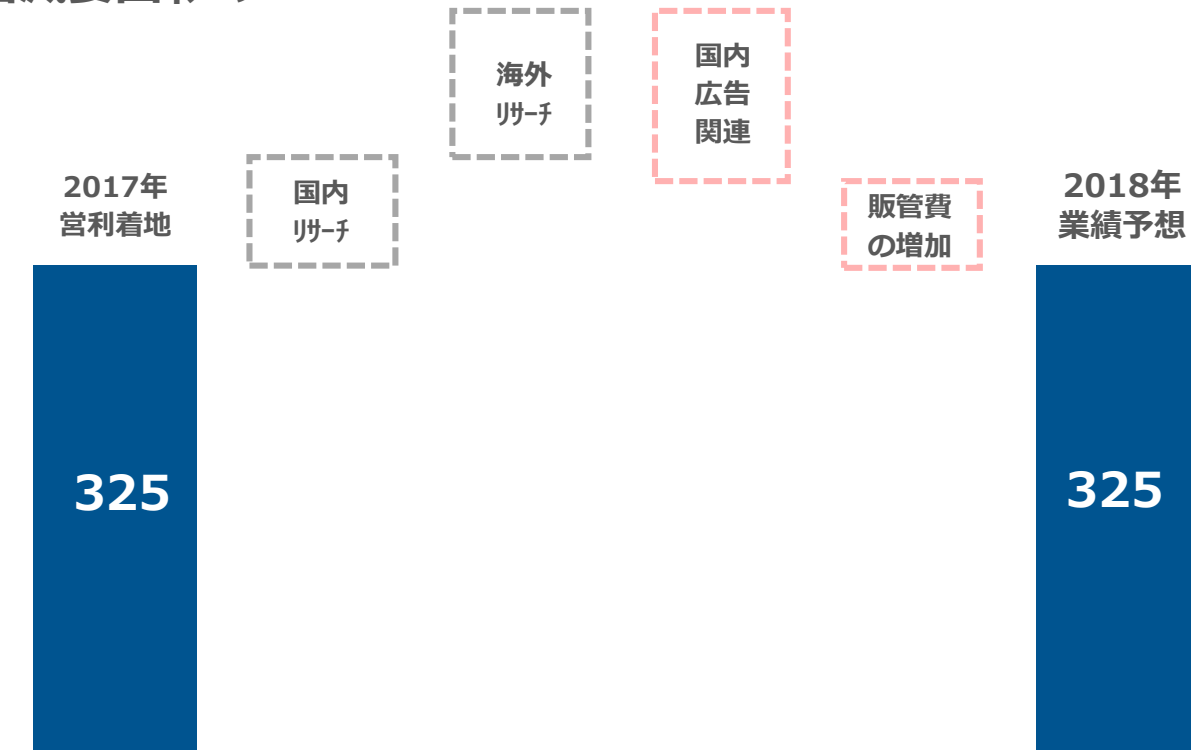
売上成長イメージ



- 2018年 営業利益の増減要因
- 国内、海外リサーチともに、順調に推移。一方、2017年下期からの一部の大口広告関連顧客による広告レギュレーションの変更がマイナス要因
- 販管費については、今後、高成長が期待できる海外を強化するため、前年利益水準を維持する範囲で、パソナの開拓、拡大等の投資を強化

営業利益の増減要因イメージ

(単位：百万円)



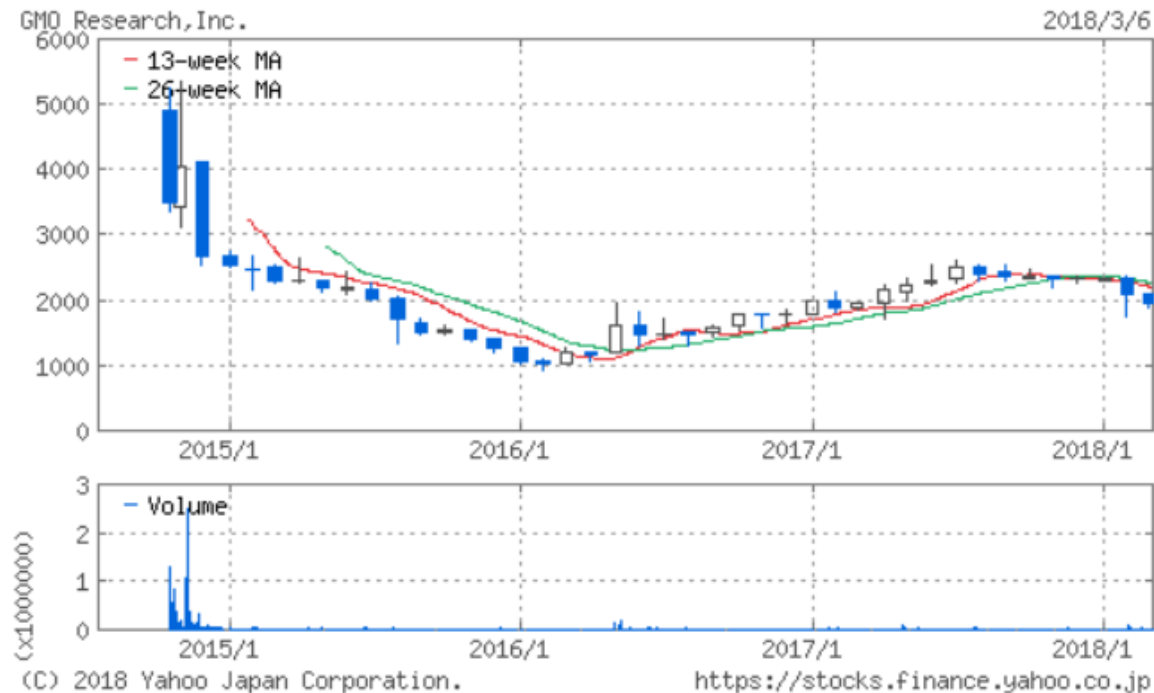
- 2018年度の配当予想については業績に連動した配当（配当性向50%）を目標とする配当の基本方針により、62.70円を計画。

	2016年度	2017年度	2018年度
	実績	(計画)	(計画)
1株当たり年間配当金 (円)	23.50	62.70	62.70
総配当性向 (%)	50.1	50.0	50.0%
1株当たり当期純利益 (円)	46.93	125.52	125.41

4

参考資料

## ■ 過去株価推移等 (3月7日時点)



**時価総額 : 33.3億円**

**P E R : 15.9倍**

**配当利回り : 3.16% (東証マザーズ市場の「配当利回り」ランキング2位)**

本日はありがとうございました。

GMO RESEARCH

本資料、および本説明会における質疑応答などにおける市場予測や業績見通しなどの内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断したものであります。  
従いまして、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを、あらかじめご承知おきください。